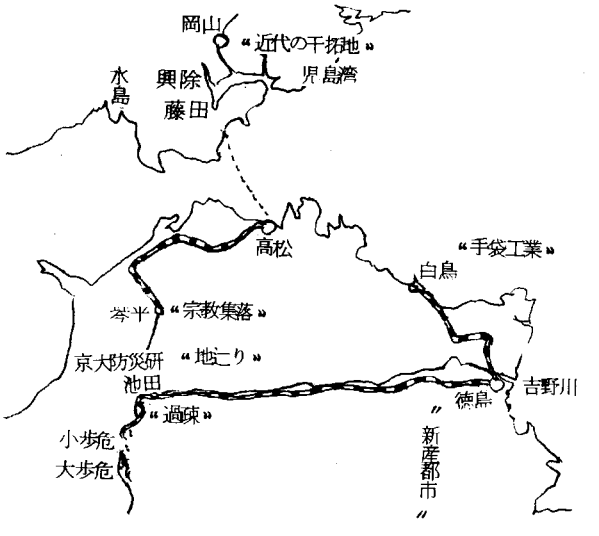
◇巡検の記録◇

四　国　巡　検（内藤先生）

4月11日 ～13日

11日　児島湾干拓の歴史は江戸時代にさかのぼる。当時は近隣から移り住んだが，明治に開かれた藤田・興除村には遠隔地から入植がなされ散居制集落として発展，戦後も造成が続いた。分家をしなかったため経営規模が比較的大きいまま保持され，経営地が集まっていたことと相まって耕耘の部門にまで早くから機械化が進められた。昭和30年頃には〝農民貴族〟と呼称されるほどだった。しかし水島・岡山の都市化・工業化の影響で兼業化が進行し，財産的土地所有か，規模を拡大して専業かという分解が起こっている。新しく干拓された地区でも，低平な水田の展望を，風よけらしい網を伴ったビニールハウスが妨げる。農業普及所も将来性ありと〝なす〟に力を入れている。進んでいるといわれたこの地域でさえ稲から商品的投機作物への依存が高まっているという現実に合理的でないものを感じた。

12日　1400余りの石段をやっと登り切ると讃岐平野が一望のもとに見下せる。地図と照らしてため池と条里制の名残を確認。お年寄も多いが，たとえ貸杖，貸草履のお世話になったとておびただしい数の石段は果たして血圧によいものといえるのだろうか？　籠屋さんも待機はしていたが・・・。それとも，お宮参りで健脚になって益々長生きを，というわけか。人口1.5万，参道と土産物店が全てかと見まごう程〝金刀比羅さん〟で成立っている鳥居前町琴平である。



京都大学防災研究所古谷氏の案内で吉野川沿いに，大歩危・小歩危を歩く。四国には表日本・紀伊と共に破砕帯地辷りが多く人家に被害が及ぶ。水利がよい緩斜面は耕地化され易く，植生が変わると地辷りが起きやすいからとの由。この険しい峡谷の見上げる程高い斜面に人家が点在する。平坦地が少な

いためわずかな緩斜面を利用して切り拓いたのだろう。日常生活にさえ不都合が多いのではないか，と苦労がうかがえると同時に，なぜそれほどまでしてこんな所に住みついたか，との疑問もわく。祖谷は平家の落人部落だったとの説もあるが…。今は空屋も多いとのこと。斜面のため機械化は難しく，移る場合も杉・檜を植え，安く耕地を譲らないため，規模の拡大もままならぬ。しいたけ・畜産などの多角経営には，資金・技術など先立つもののため踏み切れぬ農家も多い。弱電や縫製の工場が進出して来ているが男子が働くのに適当な工場がない。勢いここでも昭和３０年頃から出稼ぎが始まった。京阪神，坂出，伊予三島の建設・土木関係が多い。池田町の市街にはきざみタバコも作っている専売公社の工場が，託児所から理容院迄備えている。超単純労働ではあるが山あいの集落との違いが印象に残った。吉野川で物資を運搬する起点，土讃線，徳島本線が交わる，古くからの宿場町池田は過疎地域である。観光，工業，農業，どれもが対策を必要としている。稀に見る自然環境を持つ町ではあるが，その意味では他の多くの日本の町にも共通する問題を抱えていると言える。

１３日　新産業都市で，工業出荷額の伸び，建設事業投資進捗率は中程度の徳島で，大塚製薬工場を見学。地方自治体が先行投資をした広い敷地で，ポンカレーとオロナミンＣを作っている。回りには大塚グループの工場が集まる予定とのこと。1,５００人収容の寮をはじめ，今のところ地元と密接な関係があるようには見うけられなかった。他に日清紡，国策パルプの工場などがある。

１４日朝解散，内藤先生と同行して白鳥（しらとり）へ。１０～３０人程度が主な手袋工業の町。ここでは成長頭らしきゴルフ手袋専門の工場を訪れる。製品はエチオピア原皮使用の色彩豊かなレジャー用品。しかし作業場では型取りする男性，足に毛布を巻きつけた女性が所狭しとミシンを踏んでいる。求人難のため３０過ぎの女性を狙って過疎地や韓国へ分工場を作る傾向にあるとのこと。

あまりに多くの，考えさせられる事実にぶつかり，事前調査もろくにせず参加したことが，進むに従い益々無謀に思われた巡検だった。

しかし実際の姿をたとえわずかでも自分の体で見聞きできた意味は，大きかったと思う。受けた印象の原因を探り，修正していく作業が続けられなければならないが，その際，春の日ざしを受けた明るい四国，清々しい峡谷は，事実という重みと相まって，きっとよいはげみになるだろう。

現実がダイナミックであるからとはいえ，内容豊かなコースを組んで下さった内藤先生，各地で案内，説明して下さった皆さんに心から感謝する次第である。　（４年　寺木江理子）